

Empirical Labs EL7 FATSO

イントロダクション

FATSO Jr.

Empirical Labsのデザイナー「Dave Derr」(Distressorの創始者)にサポートを受け、正確な再現のために精細に調査を行い、ハードウェアの音のニュアンスを再現しました。FATSO(フル・アナログ・テープ・シミュレーション・オプティマイザー)はクラシックなアナログ機材が行うように、音楽的に周波数とトランジションを統合してソースのボリュームを明らかに増大させるように設計されています。これは巧妙な設計とクリエイティブな特徴を経て実現します。それが磁気レコーディング・テープとクラスA変圧器、及びチューブ回路の素晴らしい暖かくて心地よいサウンドの特性を与えます。

「トランニー」と「ウォームス」はユーザーがインプット・コントロールのダイヤルを右に回すことによってハーモニック・ジェネレーション/ディストーション効果を発生させ、テープやチューブ(真空管)のサウンドを得ることが可能です。またFATSOもミックスやステレオ・バス・コンプレッサー等、非常に用途が広いコンプレッサーとして動作します。FATSOはあなたのDAWトラックにキャラクターを加えと密着させる可能性の広いパレットを提供します。

FATSO Sr.

FATSO Sr.と呼ばれ、UAは割増料金なしでバンドルされた以前のFATSOでは利用できなかったオリジナルの概念をユーザーにもたやすために「Dave Derr」と共に開発を行いました。オリジナルのFATSOの音の形成の可能性を信じ難いほどの原動力に変えるカスタムメイドのモッズに加え、FATSO Sr.はスレッシュホールド、アタックとリリースを含む「トランニー」サチュレーション・コントロール、サイドチェイン・フィルタリング、より深いコンプレッション・パラメータを提供します。これらのFATSO Sr.モッズはこのユニークなスタジオ・ツールのユニバーサル・オーディオのプラグイン・バージョンで利用できるだけです。

注: Note: FATSO Sr.の追加コントロールはFATSO Jr.のDSPのファンクションを増やしません。したがって、両方のプラグインはUAD DSPを同じ量使用します。

FATSOスクリーンショット



FATSO Jr. プラグイン・ウィンドウ



FATSO Sr. プラグイン・ウィンドウ

FATSO機能の概要

4つのプロセッシング・タイプ

FATSOは基本的に、音楽のマナーで周波数を統合していくらかの確実なビンテージ音色のするコンプレッションを提供するように設計されていました。一般的に、ユニットのサウンドをビンテージ位相のように不自然に聞こえさせるのは難しいです。FATSOは4つのタイプのプロセッシングを提供します。

サチュレーション&ディストーション・プロセッサ

ハーモニック・ジェネレーション&ソフト・クリッパー

基本的に、これは入力・ノブと関連したディストーション・ジェネレーターです。あなたがFATSOに信号を通す場合、バイパス時を除いていつでもこの部分を信号が通過します。この処理は、クリップ・ピークと瞬間的なハイレベルの入力を許容するために有効です。また、積極的にディストーションをかける場合にも同じコントロールを使用することが可能です。

チューブ・サーキットのトライオード・ディストーションがいくつかの異なった比率で、多くの2番目と3番目の倍音を作り出すのは知られています。アナログ・テープもこのようにサチュレートさせます。第3倍音はFATSOで2台の別々のディスクリート・ディストーション回路を通してレベルを上昇させることによって、通常、結果として波形のトップとボトムを平らにします。第2倍音は特にFATSOでコンプレッションを行いつつに加えられます。FATSOの入力・クリッピングは同じ結果をあなたに与えるでしょう。これらの低い順序倍音は基本的な楽音に「オクターブ」、および、「オクターブと1/5」を形成します。これらは実際に「音楽的な」ディストーションです。

第2、第3を上回る倍音は著しく耳障りになるので、我々の方針をキープするために振幅(-60dB)は低くなければなりません。第2倍音は最も暖かく、最も調和したディストーションと考えられます。

ウォームス・プロセッサ

ハイ・フリークエンシー・サチュレーション

この回路はアナログ・テープで起こる高周波数の音を柔らかくすることをシミュレーションします。基本的にウォームスを増やすとあまりに明るい音と過ぎた音はすぐに減衰されます。タイム・コンスタンス(時定数)が即座なので、高周波数が大きくなされた後、非常に速く戻ります。

ウォームス回路はFATSOの中でも複雑な部分です。

基本的に、それは非常に変わったハイ・フリークエンシー(HF)ゲイン・コントロール回路または、HFリミッターです。それはすぐに行われ、その動作は非常に控え目です。望ましい結果はHFアンプが特定の周波数の「自己消去」を生じるためにテープレコーダー・バイアスと相互に作用する場合、アナログ・テープが示すHFサチュレーションと同類です。フィルターの性質は、減衰が動く周波数のコーナーで起こります。

1つだけのコントロールがウォームスのためにあります。しかしこの回路の全体的な動作をコントロールする他の方法もあります。あなたがコンプレッサーを使用すると決めた場合、それがウォームスの動作に影響を及ぼすので、最初にそれを準備して下さい。コンプレッサーとウォームス・セッティングの間には深い相互作用があります。コンプレッサーのスレッシュホールドとして設定を考える最もいい方法があります。最も低いスレッシュホールドと最も多いウォームスの7は、しばしば高周波数コンテンツに素早く反応します。総合的なレベルをコントロールする代わりにウォームス「コンプレッサー」スレッシュホールドが高周波数に影響するだけであることを覚えておいてください。

トランニー・プロセッサ

トランスフォーマー & テープヘッド・エミュレーション

トランニー・サーキット(「トランニー」とはトランスの省略です)は以前のデバイスの入出力トランスのエフェクト・シミュレーションで、アナログ・テープを特徴づける低周波数のハーモニクスを加えます。これは小さなスピーカーでは再生できずにカットされてしまう純粋な低周波数タイプの音に非常に役立ちます。それは150Hz未満の周波数、特に40Hz周辺のベース・ギター低音弦のように低い小さいスピーカーでは再生しにくい音に「暖かい」倍音を加えます。

トランス・デザインとその使用は芸術です。そして常にトレード・オフがあります。良いオーディオ・トランス回路がオーディオ信号に合わせて素晴らしい動作をすることも広く知られていました。これはトランニー回路のゴールでした。ハードウェア・デザイナーは一貫した音楽の方向、及び選択可能なファッションで古き良い入出力トランスの望ましい特性を模倣しようとしてきました。低周波数での倍音の追加と周波数のフェーズ・チェンジに伴うピークのサチュレーションは起こります。

大きくて現在高価な以前の入出力トランスの低周波数エフェクトを異様な内部的にバッファーされたスイッチで切り替え可能なデザインにとらえることができると分かりました。

トランシー回路の音楽の結果を要約するためにも、少しミッドレンジにエッジがあり、ピークがオリジナルより少ないとしても非常に低い周波数帯はより大きく聞こえるように倍音を変えられます。小さなスピーカーでの再生では、トランシーが加える「サイコ・アコースティカー・プリージング・ディストーション」の効果でローエンドが改善されて聴くことが可能です。

コンプレッション・プロセッサ

クラシック・ニー・コンプレッション、エンピリカル・ラボ・スタイル

これは、あらゆる機材とボーカル・トラック、そして総合的なバスに使用可能な典型的なオートマチック・レベリング・デバイスです。唯一のエンピリカル・ラボ・コンプレッションです。あなたに対してだけスムーズで甘い音を提供します。

FATSOには、基本的に4つの別々のコンプレッサーがあります。:バス、ゼネラル・パーポース(G.P.)、トラッキングとスパークです。モードを切り替えると同時にコンプレッサーのスレッシュホールド、レシオ、アタック、とディケイがセットされます。これは簡単にセッティングでき、どんなグループにも使用できるカーブを提供します。すべてのタイプのリリース・カーブは対数関数的で、それは最初速く、その後ゆっくりとリリースされます。このリリース・カーブは、FATSOのコンプレッサー・サウンドの大きな部分です。

注: スレッシュホールド、アタックとディケイはFATSO Sr.では調節することができます。

バス

バス・モード(緑色のLED)では緩やかな2:1タイプのレシオ、遅いアタック、早いリリースと非常に柔らかいニーです。1~4dBのゲイン・リダクションは、このコンプレッサー・タイプでは典型的なものです。5dB以上のバス・コンプレッションは激しすぎます。

G.P.

ゼネラル・パーポース・モード(黄色のLED)では、一貫したRMSレベルを維持しますが、音が聴こえない間も中くらいのアタックと遅いリリース・タイプです。遅いリリースはあなたの音を不自然に処理することはありません。

トラッキング

トラッキング・モード(緑と黄色のLED)はレコーディングをしている間、またはミックスダウンの間に楽器やボーカルをトラッキングするのに良い1176タイプのコンプレッサーです。

スパーク

スパーク・モード(赤いLED)は70年代、80年代の古いSSLトークバック・コンプレッサーの素晴らしい効果をエミュレートするように設計されたリミッター・タイプ・コンプレッサーです。他のどれかのモードと組み合わせた場合、Sparkのアグレッシブな本質が支配してしまう傾向があることに注意して下さい。

FATSOコントロール

FATSOのコントロールについて一般的なものは下記の通りです。そして各々のチャンネルに特有のコントロール、グローバル・コントロール、FATSO Sr.のコントロールの詳しい説明が続きます。

モノ/ステレオ・オペレーション

FATSOはステレオ、またはデュアル・モノ・モードで動作可能な2チャンネル・デバイスです。両方のチャンネルが同じ値を必要とするとき、「コントロールのリンク」の項を参照して下さい)、両方のチャンネルのコントロールは、ステレオ・オペレーションを容易にするために連動させるか、デュアル・モノとして使用するためにリンクを外し、独立して使用することができます。

チャンネル機能の各々には、別々にコントロールのグループがあります。(チャンネル1と2のためにそれぞれ1セット)2つのチャンネル各々のコントロールが同じである場合、それらは一つだけに詳細なセッティングを行います。

注:FATSOがモノ・イン/モノ・アウト構成で使用される時、チャンネル2のコントロールは影響を受けません。リンク・パラメータも使用不可能です。

プッシュ・ボタン

全てのFATSOプッシュ・ボタンは瞬間的に反応します。ボタンがクリックされるたびに、パラメータの値は1ステップ増加します。(ボタンを押さえつけるだけでは値は変化しません)値のサイクルはレンジの端に達した時に始まります。リンク・パラメータを除いては、コントロールLEDインジケータをクリックしても影響はありません。

Tips:「シフト+クリック」を行った場合、どんなプッシュ・ボタンでも値を1にまで減少させます。

チャンネル・コントロール

インプット



インプット・ノブは、プラグインに使用する信号のレベルを設定します。高いインプット・レベルはサチュレーションを起こします。クリップした場合、(LEDに示されるように)0VUよりも上のレベルでは劇的に高いディストーション・サウンドを提供します。下記のTHDインジケータを参照して下さい。

コンプレッサーが動作中(下記のコンプレッサー・モードを参照して下さい)、ゲイン・リダクション・メーターで示されるようにより高い入力により多くのコンプレッションがかかります。

注: バイパス(後述)がアクティブな場合、このコントロールは動作しません。

THDインジケータ



トータル・ハーモニック・ディストーション(THD)LEDはいくらかの動作中のレベルを表示し参照することができます。黄色の「0VU」LEDはおよそ1%のTHDを示します。そして赤い「Pinned」LEDは5%かそれ以上のTHDを示します。これらのLEDはユーザーが「グランジ部」にいるというための優れたガイドとなります。あなたはハーモニック・ディストーションが通常全体的なミックスや複雑なプログラムに使用するときには明白です。個々の楽器に対して、時々10%の歪みは音が「太く」や「アナログ」っぽく聴こえ、歪みとして聴こえない場合があります。

コンプレッサー・モード



「COMP」ボタンは、どのコンプレッサーが動作中か設定します。モードの説明については「コンプレッサー・プロセッサー」の項を参照して下さい。スパイク・モードは合計で7つのコンプレッサー・モードのうち、3つのモードと結合して使用することが可能です。

注: 一般的に言って、コンプレッサーと他のプロセッサーとの高度な相互作用によるインプットとコンプレッサー・モード・コントロールは、FATS0プロセッサーの設定の前にセットされなければなりません。

モードLED

3モードLEDはアクティブになっているモードを表示します。それぞれ特定の値については次ページの表を参照して下さい。すべてのモードLEDがオフの場合、コンプレッサーは無効です。

コンプレッサー・モード LED の状態

コンプレッサー・モード LED の状態	有効なコンプレッサー・モード
全てのユニット	コンプレッサーは無効
緑	バス
黄色	ゼネラル・パーポース (G.P.)
緑+黄色	トラッキング (最も多目的なレシオ)
赤	スパイク
赤+緑	スパイク+バス
赤+黄色	スパイク+ゼネラル・パーポース
赤+緑+黄色	スパイク+トラッキング

GRメーター

ゲイン・リダクション・メーターはFATSOコンプレッサーの中で起こっているゲイン・リダクションの量を示します。そしてマイナスのdB値として表記されます。



注: 極端なセッティングをした場合、GRメーターはコンプレッサーが無効な場合でもゲイン・リダクションが起こっていることを示すかもしれません。これはハードウェア・ユニットと同じ仕様です。

ウォームス



このボタンはウォームス量を設定します。ウォームスはアナログ・テープのサチュレーションで起こる高周波が柔らかくなる効果をシミュレートしています。(ウォームスの詳細な説明については前述の「ウォームス・プロセッサー」を参照して下さい。)

ウォームス・メーターで表示するようにより高い値はウォームスを増やします。

利用可能な値は1~7です。現在設定されている値はアーチ形に配置されたウォームスLEDによって表示されます。すべてのLEDが点灯していない場合、ウォームスはオフです。

ウォームス・メーター

ウォームス・ボタンによって定められたようにウォームス・メーターは高周波数のアッテネーション(減衰)を非常に正確に表示します。メーターは、20kHzで起こっているHFゲイン・リダクションの量を表示します。



注: 極端なセッティングでウォームスが使用不可能な場合でもウォームス・メーターが動作をしているかもしれません。これはハードウェア・ユニットと同じ仕様です。

バイパス/トランニー



この黒いボタンは多機能コントロールです。繰り返しボタンをクリックすることによってトランニー、バイパスとトランニー・オフ・モードを循環します。現在実行されているモードは隣にあるLEDで表示されます。

トランニー（緑色のLEDが点灯）

トランニー・プロセッサーは、このモードで作動中です。（このモードの詳細な情報に関しては、「トランニー・プロセッサー」の項を参照して下さい。）トランニー回路は、周波数を丸め、クリッピングを下げ、インターモジュラー・ディストーションと一時的なクリッピングを加えます。FATSO Sr.上ではトランニー・レベルを使用してトランニー量をコントロールすることが可能です。

注: DSPロード・ロックが使用不能な場合、トランニーを無効にすることはUAD DSP使用量に重要な縮小を与えます。DSPロード・ロックが使用可能な場合（デフォルト・セッティング）、トランニーを無効にしてもDSP使用量は減少しません。

トランニー・オフ（赤と緑のLEDが消灯）

このモードではトランニー回路は無効ですが、他のプロセッサーは動作しています。このモードではトランニーが作動中よりも必要とするUAD DSPが少なく手すみます。

バイパス（赤いLEDが点灯）

このモードでは、チャンネルへのすべてのFATSOのコントロールと処理は無効です。

注: UAD DSPロードはバイパス・モードでは減りません。FATSOの両方のチャンネルをバイパスするときにUAD DSP使用量を減らしたい場合、バイパスする代わりにパワー・スイッチを使用して下さい。

アウトプット



アウトプット・ノブはプラグインから出力される信号のレベルをコントロールします。

注: (前述の)バイパス・モードが有効な場合、このコントロールは影響しません。

グローバル・コントロール

グローバル・コントロールはチャンネル特有のものではありません;両方のチャンネルに対して適用されます。

リンク・コンプレス



チャンネル1と2のゲイン・リダクション回路のコントロール信号サイドチェインはリンク・コンプレスをを使用してリンクさせることが可能です。

リンク・コンプレスをアクティブにするには、左側のチャンネル1のリンク・コンプレスLEDまたは文字をクリックして下さい。LEDが点灯しているときはアクティブです。

ステレオ信号の典型的な使用方法では、ステレオ・イメージが維持されるようにリンク・コンプレスはアクティブにしておかなければなりません。コンプレッサーが無効になっている場合(コンプレッサー・モードの項を参照)、またはFATSOがモノ・イン/モノ・アウト構成になっている場合にはこのコントロールは影響を持ちません。

重要: チャンネル1と2のためのコントローラーは左右それぞれに対して同じものがあるものの、リンク・コンプレス機能は左側だけにあります。(右側にあるリンク・コントロール機能と混同しないように気をつけてください。)

リンク・コントロール



チャンネル1と2のパラメータ・コントロールはリンク・コントロール機能を使用して左右をリンクさせることが可能です。

リンク・コントロールをアクティブにするには、右側のチャンネル2のリンク・コントロールLEDまたは文字をクリックして下さい。LEDが点灯しているときはアクティブです。

注: リンク・コントロールがアクティブである場合、左右のウォームスとトランニー・コントロールはリンクされていますが、実際のウォームスとトランニー・プロセッサーはリンクされておらず、ステレオではありません。この仕様はオリジナルのハードウェアと同じです。

コントロール・リンクを行う

両方のチャンネルが同じ値を必要とする場合、コントロール・リンクをステレオ動作に提供します。有効にした場合、右チャンネルのコントロールは、左チャンネルのコントロール値に合わせるために「スナップ」されます。そしてどのチャンネル・コントロールでも修正した場合、それにステレオ対応するコントロールが同じ値に動きます。(チャンネル1と2のコントロールは、このモードでは一組として扱われます。)

重要: リンク・コントロールを有効にした瞬間、右チャンネル・パラメーターの値は失われます。

コントロール・リンクを行わない

デュアル・モノで使用したい場合、コントロールのリンクを外して下さい。このモードでは、チャンネル1と2のコントロールは完全に独立しています。そしてオートメーション・データは別々に描かれ、各々のチャンネルによって読まれます。FATSOがモノ・イン/モノ・アウトで使用される時、リンク・コントロールは使用不可能です。

重要: チャンネル1と2のためのコンローラーは左右それぞれに対して同じものがあるものの、リンク・コントロール機能は右側だけにあります。(左側にあるリンク・コンプレス機能と混同しないように気をつけてください。)

パワー



トグル方式のパワー・スイッチはプラグインが動作するか否かを決定します。それは処理されたセッティングを処理前の信号を比較する場合に役立ちます。パワーがオフの位置(下側)にある場合、プラグインで処理は行われません。UAD DSPの使用率は減少し、LEDは消灯しています。

注: DSPロード・ロックが無効になっている場合、UAD-2 DSPの使用率が減少します。DSPロード・ロックが有効にされている場合(デフォルト)、パワーをオフにしてもDSP使用率は上がりません。

プラグインを無効にするためには、スイッチの下部をクリックして下さい。有効にするには、上部をクリックして下さい。(または、スイッチ上で、クリック+上にドラッグ/クリック+下にドラッグ)

FATSO Sr. コントロール



これらのコントロールはFATSO Sr.特有のもので、しかしFATSO Sr.の追加コントロールはFATSO Jr.のUAD DSP機能を増やさないの両方のプラグインは同じ量のUAD DSPを使用します。

スレッシュヨルド



このノブは、FATSOコンプレッサーのスレッシュヨルドをマニュアルでコントロールすることを可能にします。より高い値は、スレッシュヨルドを下げ、コンプレッションの量を増やします。5の値は統一セッティングです。インプットのコントロールは、インプット・コンプレッションに影響を与えます。一般的な方法は、インプットを最初

に望ましい信号サチュレーションにセットし、そして望む位置にスレッシュヨルドを調整して下さい。

フィルター(HP SIDE FILT)



フィルターは、コンプレッサーのコントロール信号のサイドチェイン上で、フィルター・カットオフ・フリークエンシーをコントロールします。アクティブな時、フィルター値の下の周波数は、サイドチェインを通過しません。値は、60Hz、120Hz、240Hz、480Hzとオフが選択可能です。フィルター・スロープは1オクターブにつき6dBです。コンプレッサーが無効の場合、フィルターは影響を持ちません。そしてLEDも消灯します。コンプレッサーを有効にした場合、フィルターは最初の値に戻ります。

Tips: オーディオ信号自体の低音成分を減らさずにサイドチェインから低周波数帯を取り除くことは過度のゲイン・リダクションやポンピングを減少させることが可能です。

注: フィルター・パラメータは、コンプレッサーのコントロール信号(サイドチェイン)だけに影響を及ぼします。それはオーディオ信号をフィルターに通しません。

アタック



アタックは一旦入力された信号がスレッシュホールド・レベルに達してから、コンプレッションが適用されるまでの時間の量を設定します。アタックの値が早いほどコンプレッションは信号がスレッシュホールドを超えたあとすぐに適用されます。

選択可能なアタック・タイムの値は0.9ms、10ms、30ms、100msとデフォルト(消灯している)です。消灯している場合は、コンプレッサーがアクティブかどうかによります。これらについては以下で説明します。

注: アタック値概算されています。実際のアタックとリリース・タイムは選択したコンプレッサー・モードに従い異なるかもしれません。

アタックLEDは消灯 - コンプレッサーは有効

コンプレッサーが有効にされ、すべてのアタックLEDが消灯している場合、FATSO Jr.の有効なコンプレッサー・モードのアタックの特性は使用されています。この「デフォルト」動作は、アタック・ボタンを使用してマニュアルで変更することができます。しかし「純粋な」スパイク・モードで動作中の場合、アタックは修正することができません。スパイク・モードが他のコンプレッサー・モードと結合している場合、アタックを変更することができますが、典型的な結果としては非常に薄いです。

Tips: 他の時定数を試した後に、LEDが点灯しなくなる(FATSO Jr.のデフォルト時定数を意味します)までアタック・コントロールを循環させることにより、必要に応じてFATSDO Jr.のデフォルト・アタック・セッティングに戻ることが可能です。

アタックLEDは消灯 - コンプレッサーは無効

コンプレッサーが使用不可能で、すべてのアタックLEDが消灯している場合、ボタンは使用不可能です。

注:コンプレッサーが無効な場合、または「純粋な」スパイク・モード(コンプレッサー・モードを参照)である場合、このコントロールは影響を持ちません。

リリース



リリースは、入力された信号がスレッシュホールドのレベル以下に下がった後、コンプレッションが終わるまでにかかる時間の量を設定します。遅いリリース・タイムは信号がスレッシュホールドより下がった時に起こるトランジションをスムーズに整えます。特にたびたびピークが起こるサウンドに最適です。しかし、リリース・タイムがあまりに長い場合、大きな信号によるコンプレッションの影響がその後の小さい信号への影響が長い部分に渡って及んでしまいます。

選択可能なアタック・タイムの値は0.05s、0.1s、0.2s、0.5sとデフォルト(消灯している)です。消灯している場合は、コンプレッサーがアクティブかどうかによります。これらについては以下で説明します。

注:リリース値は概算です。実際のアタックとリリース・タイムは選択したコンプレッサー・モードに従って異なるかもしれません。

リリースLEDは消灯 - コンプレッサーは有効

コンプレッサーが有効にされてすべてのリリースLEDが点灯していない場合、すべてのリリースLEDが消灯している場合、FATSO Jr.の有効なコンプレッサー・モード特有のリリースが使用されます。この「デフォルト」のFATSO Jr.の設定は、リリース・ボタンを使用してマニュアルで変更することが可能です。しかし、「純粋な」スパイク・モードが有効な状態ではリリースを変更できません。スパイク・モードが他のコンプレッサー・モードと結合している場合、リリースを変更することができますが、典型的な結果としては非常に薄いです。

Tips: 他の時定数を試した後に、LEDが点灯しなくなる(FATSO Jr.のデフォルト時定数を意味します)までリリース・コントロールを循環させることにより、必要に応じてFATSDO Jr.のデフォルト・リリース・セッティングに戻ることが可能です。

リリースLEDは消灯 - コンプレッサーは無効

コンプレッサーが使用不可能で、すべてのリリースLEDが消灯している場合、ボタンは使用不可能です。

注:コンプレッサーが無効な場合、または「純粋な」スパイク・モード(コンプレッサー・モードを参照)である場合、このコントロールは影響を持ちません。

トランニー・レベル



このコントロールはトランニー処理(詳細については「トランニー・プロセッサー」の項を参照して下さい)の量を設定します。高い値はトランニー効果を強くします。トランニー・レベルを上げるということはシグナルTHD(「THDインジケータ」の項を参照して下さい)とウォームス・プロセッサーの感度を上げることになります。5の値は統一セッティングです。

注:トランニー・プロセッサーが無効になっている場合、このコントロールは影響を持ちません。(バイパス/トランニーの項を参照して下さい)

LF Sat LED

The LF Sat (ローフリーケンシー・サチュレーション) LEDはトランニー・プロセッサーのLFサチュレーション量を示します。より高いトランニー・レベル値はLFサチュレーションを増やします。

FATSO Jr. プリセット

FATSO Sr.にFATSO Jr.上で作ったプリセットをロードした場合、FATSO Sr.特有のパラメータはデフォルト・コントロール値で設定されます。FATSO Sr.独特のパラメータのデフォルト値は以下の通りです。:トランニー・ノブは5、フィルター/アタック/リリース・ボタンはオフ。

WebZine 記事

FATSOの実用的で徹底的な記事は2009年7月のユニバーサル・オーディオWebzineの「アナログ・オブセッション」という記事で紹介されています。

・ <http://www.uaudio.com/webzine/2009/july/analog.html>



Empirical Labs EL7 FATSO Jr. ハードウェア・ユニット

FATSOへのすべての視覚と聴覚による引用とEMPIRICAL LABS社の商標のすべての使用はEMPIRICAL LABSより書面による許諾を得ております。このプロジェクトに多大な協力をいただいた「Dave Derr」氏に感謝いたします。